１４０字の読書界［読書週間特別号①］

藤高教員の「高校生に読んで欲しい／高校生におすすめ」本

1

書名：偏差値７０の甲子園 ～僕たちは文武両道で東大も目指す～　［藤高蔵書 ○］
著者：松永 多佳倫（まつなが たかりん）
発行：集英社文庫

数学科 片矢雄大 先生

湘南や北野、札幌南など、全国屈指の進学校でありながら甲子園出場経験もある学校の野球部員の日常生活に焦点を当てた作品。作品名に「文武両道」とありますが、「文武不岐」だなと思います。本校の目指す姿の一つに「文武不岐」があります。似ているようで異なる２つの言葉、違いが分かりますか？

2

書名：項羽と劉邦　上中下　［藤高蔵書 ○］
著者：司馬遼太郎（しば りょうたろう）
発行：新潮文庫

国語科 島田由香 先生

高校時代、国語の教科担任の先生にすすめられ、上巻・中巻・下巻を一気に読み通した思い出の本です。項羽と劉邦、そして彼らを支える登場人物一人ひとりが、明確な輪郭と確固たる意志をもち、躍動し駆けまわる疾走感にただただ圧倒されました。人間のあり方について考えるきっかけを与えてくれました。

3

書名：君たちはどう生きるか　［藤高蔵書 ○］
著者：吉野源三郎（よしの げんざぶろう）
発行：岩波文庫

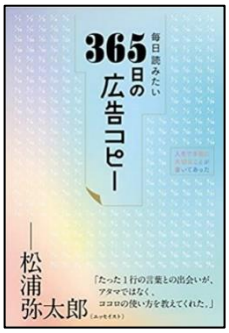
松田透 校長先生

急激な変化の時代、あなたは絶えず「どう生きるか」を問われている。この本が書かれた１９３７年頃の日本も、軍部が台頭し戦争へと傾斜していった時代。作者は国の将来を憂え、人としての正しい生き方を伝えようとしたのだ。
吉野が少年たちに最も強く訴えていたのは、【　　】ということであると私は思う。

4

書名：毎日読みたい　３６５日の広告コピー　［藤高蔵書 ○］
著者：WRITES PUBLISHING 編
発行：ライツ社

理科 三浦伸広 先生



タイトル通り、「1 日 1 コピー」。月日や状況に合ったコピーが 1 月 1 日から 12 月 31 日まで、月毎に色分けされ日めくり感覚で見られます。コピーライターが何十時間もかけて絞り出した少ない字数で心に響く文章がこの本にあります。読み終えた後、工夫されたデザインの表紙を使っての贈り物にするのもよいかも。

一言：図書委員が依頼した先生方に執筆していただきました。来週、もう１号発行します。（有馬）